

## 十和田市事務事業評価シート

### 【事務事業の概要】

整理番号	100	実施計画番号	150
事務事業名	外国青年招致事業		事業開始年度 平成3年度
担当課名	指導課		事務の種類(選択) 自治事務
根拠法令等		関連事務事業	国際教育支援事業
背景や経緯等	社会のグローバル化によって外国語によるコミュニケーション能力、異文化を理解・尊重し、共生しようとする態度等が求められている中、国の「語学指導等を行う外国青年招致事業(略称JETプログラム)」を利用して、外国語指導助手(ALT)を市内小・中学校に派遣している。平成3年に1名体制でスタートし、平成22年からは、小学校における外国語活動実施に向けて、4名体制となっている。		
事務事業の目的	ALTを小・中学校に派遣することにより、外国語によるコミュニケーション能力を高め、異文化を理解・尊重し共生しようとする態度を育て、国際化に対応できる人材の育成を図る。		
実施状況	4名のALTを、市内全小・中学校に派遣し、英語及び外国語活動の授業の支援などを行った。長期休業中には、英語弁論大会の指導、イングリッシュ・デイの企画運営、教員研修の補助などにあたり、活躍範囲は多岐にわたる。		

### 【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	30	30	30
	人件費(千円)	1,080	1,080	1,080
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	4	4	4
	活動日数(日)	245	245	245
	人件費(千円)	7,252	7,252	7,252

### 【事業費の推移】

	23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)	1,669	1,981	2,635
うち一般財源	1,669	1,981	2,635
うち国県支出金	0	0	0
うち地方債	0	0	0
うちその他	0	0	0

### 【指標】

活動指標	活動指標名①	ALTの数			
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
		人	4	4	4
	活動指標名②	派遣校数			
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
		校	29	29	26
成果指標	成果指標名①	ALTの派遣回数			
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度
		回	目標値 810	810	705
			実績値 806	860	
			達成度(%) 100%	106%	
	成果指標名②				
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度
		目標値			
		実績値			
		達成度(%)			

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	100
計画No	150

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 <b>0 / 4</b> 国際化に対応する人材の育成という点から、妥当な事業である。	
	② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 <b>0 / 6</b> ALTは、英語や外国語活動の授業をはじめ、学校行事などでも積極的に活用されている。児童生徒がALTと直接触れ合う体験は、他では代用できない。	
	④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 <b>0 / 6</b> ALTの活動状況を、指導課が直接把握して支援できるメリットを考えると、現在のJETプログラムの利用が適切である。	
	⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 <b>0 / 4</b> 市内全小・中学校に派遣している。また、すべての児童生徒がALTと触れ合う機会を持てるように、特別支援学級、病院学級、教育相談室などへも派遣している。	
	⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
<b>現在の適性</b>					<b>20 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>0 / 20</b>

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
平成23年度からの小学校外国語活動の導入、平成24年度からの中学校英語授業時数の増加(週3時間から週4時間へ)を踏まえると、全小・中学校へのALTの派遣及び効果的な活用を引き続き進めていく必要がある。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
今後も、英語や外国語活動等の授業の充実のため、ALTの活動状況について、ALT、派遣校、指導課の間の連絡を密にとり、支援内容を充実させていきたい。